

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 鯖江市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 生活交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・路線名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改善補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善点は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
つつじ橋	つつじバス 循環線、神明線、片上・中河線、立待線、河和田線	【前回の評価内容】 (評価できる取組み) ・SNSの活用やバス車内の掲示スペースをギャラリースペースとして活用するなど、バスに親しみを感じてもらえるような情報発信やバスに乗ってもらうきっかけ作りに取り組んだことについて評価します。 ・昨年度実施されたコミュニティバスの再編(循環線のパターンダイヤ化や各地区路線との接続向上)が、利用者に浸透し、利用者数の増加につながっていることについて評価します。	A・B・C 評価 令和6年度事業については、概ね地域公共交通計画に基づいて事業を進めることが出来た。 令和4年4月に実施したダイヤ改正内容の定着を第一としつつ、新たな利用者獲得に向けて幅広い年代層に向けた事業を行ってきたところである。	A・B・C 評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】 ○実績 【R3】R2.10~R3.9 目標 230,900人 実績 107,021人 R4.4.1~ダイヤ改正実施 【R4】R4.4~R5.3(※R3.12に地域公共交通計画策定、R4.4.1にダイヤ改正を実施したことによる) 目標 149,200人 実績 113,806人 【R5】R4.10~R5.9 目標 154,400人 実績 124,279人 【R6】R5.10~R6.9 目標 159,600人 実績 144,766人 【R7】R6.10~R7.9 目標 164,800人 実績 人 【R8】R7.10~R8.9 目標 170,000人 実績 人	利用者数については、目標に対しては未達であるが、令和4年4月にダイヤ改正・路線改編を行うことから増加傾向であり、目標との距離も徐々に減ってきていることから、利用促進、周知活動を継続することで、更なる利用者の増加が見込まれると想定しており、最終年度までに達成が見込みである。 今後の事業内容については、まず、北陸新幹線敦賀開業後のハビランふくいの利用状況やコミュニティバスとの乗継ぎ状況について把握に努め、実績や要望に応じたダイヤ改正等を検討することより、利用者の利便性を損なわないようにする。この点については現在利用者アンケートを実施しており、その結果をもとに協議を進めていく。
越前観光光	つつじバス 循環線、鯖江南・新横江線、豊線	①情報発信や利用促進については、活動回数だけでなく、参加者数などのくわいの方々に伝わっているかを把握されるよう期待します。 ②日頃コミュニティバスを利用されていない方々に対しては、このバスはどのようなバスで、乗り継ぐといろんなところに行けるといった基本的な情報をまとめたチラシによる周知など、分かりやすく伝えていくことを期待します。 ③市内を運行する地域間幹線系統のうち、輸送量が低迷している系統(特に鯖浦線、福浦線)について、引き続き、現状や問題意識を県・関係市町・関係事業者と共有するとともに、当該系統の必要性に応じ、利用促進や系統維持に向け、県や関係者と連携して取組を実施されるよう期待します。	更新を予定していた新デザインの小型バス5台については、計画どおり3月に納車、運行を開始した。新車運行開始に先立ち、市内各所で披露自走を実施、園児とその保護者等100人近くが参加した。園児達には記念撮影や試乗体験ののち、つつじバスの塗り絵に色付けをしていただき、4月以降のバス車内に掲示した。園児達にはこういった体験からつつじバスに愛着を持ち、バス乗車の意欲を高めてもらうことで、保護者の方も合わせた利用促進につながることを期待している。 また、市内高校のデザインコースの学生と協働でバス標識看板(丸板)のデザイン刷新を行うにあたり、丸板看板の新デザイン作成の実施を行い、12月にデザインを決定した。同じく3月に市内バス停217か所、291枚の看板を一新し、新看板のお披露目会を実施した。	※一便あたりの利用者数推移 ○O線 【R3】→【R4】→【R5】→【R6】→【R7】→【R8】 循環線 【5.99】→【6.94】→【8.11】→【9.46】→【 】→【 】 鯖江南・新横江線 【1.26】→【1.55】→【1.39】→【1.58】→【 】→【 】 神明線 【4.13】→【3.24】→【3.78】→【6.17】→【 】→【 】 片上・中河線 【3.57】→【2.20】→【2.71】→【2.81】→【 】→【 】 立待線 【4.12】→【3.70】→【4.68】→【4.74】→【 】→【 】 吉川線 【5.02】→【4.02】→【4.70】→【5.02】→【 】→【 】 豊線 【4.45】→【5.00】→【6.17】→【6.70】→【 】→【 】 北中山・中河線 【1.18】→【1.39】→【1.49】→【1.83】→【 】→【 】 河和田線 【5.21】→【4.24】→【4.55】→【5.03】→【 】→【 】 全路線 【4.38】→【4.32】→【5.01】→【5.77】→【 】→【 】	また、ご自宅がコミュニティバスのバス停から離れている等の理由で公共交通を利用できない方々のためのコミュニティバスの2次交通的な役割として、現在自家用車活用事業や自家用有償旅客運送の実証実験を展開している。こうした新たな交通手段の実証実験結果を踏まえ、コミュニティバスの行き届かない範囲をライドシェア等でカバーするような新たな交通網の整備を計画していく。
鯖江交通	つつじバス 吉川線、立待線	①令和5年度から引き続き実施しているSNSを活用したコミュニティバスの情報発信については、コミュニティバスの日常だけでなく、福井鉄道や利根バス、今年3月から第3セクター化されたハビランふくいの様々なイベント情報をまとめて情報発信することで、公共交通全体での利用促進を図っている。さらに、市の観光イベント等とも合わせて情報発信することで、普段バスを利用していない方にも目に触れる機会を創出するよう努めている。そうした取り組みからSNSのつつじバスアカウントのフォロー数も増加しており、情報を確認しリアクションを取った証拠である「いいね!」の数も増加傾向にある。 ②(①とも関係するが)日頃コミュニティバスを利用されていない方に対する利用促進の取り組みとして、地域の高齢者サロンでの出前講座を継続的に実施している。コミュニティバスを利用されたことがない方からすると、近所のバス停の位置はまだしも、バスが来る時間や行先(時刻表の見方)、そももいからどのように支払うのかなど、わからないことが多いことが利用を妨げている。サロンにおいては、地域ごとに配布資料を加工し、その地区・町内におけるバスの効率的な利用方法について説明を行っており、参加者からも好評をいただいている。今年度は計7回の実施で100人以上の皆様に参加していただいている。	これらの取り組みは新聞等マスコミにも取り上げていただき、つつじバスを利用している方もそうでない方も、幅広い層の方々の目に触れさせていただくことで、益々の利用促進につながることが見込まれるほか、園児や学生といったこれからの鯖江市を担う若者が主体となり参加することで、持続的で長い間市民に愛されるコミュニティバス事業となることを期待する。 コミュニティバスのダイヤ改正については、福井工業高等専門学校の始業時間変更の申し出や、北陸新幹線敦賀開業に伴いJR北陸本線がJR西日本からハビランふくいに経営移管されたことに伴う鉄道ダイヤ改正等を踏まえ、令和6年9月から鯖江駅発・福井高専行の1系統のみダイヤ改正を実施し、福井高専内でも周知を依頼した。これまで利用されたことのない福井高専学生にも利用しやすいダイヤとなるよう、引き続き関係各位と協議を進めていく。	こうした情報発信、利用促進の取り組みについては、引き続きより良い周知方法や見せ方などを検討しながら、継続して取り組んでいく。	新たな交通網の整備計画にあたっては、富士通が国土交通省の実証事業として令和7年度に実施を予定している。地域交通の最適化をAIを使って可視化する仕組みづくりの取り組みも活用し、公共交通を構築する様々な手段の中から最適な交通体系を構築していく。
鯖江高速観光	つつじバス 循環線、神明線、片上・中河線、北中山・中河線、河和田線	③地域間幹線系統については、市民の広域的な移動手段として必要不可欠なものとなっているが、バス運転士不足等の影響により減便が相次ぎ、福鉄バス福浦線が令和6年9月末をもって廃線となった。こうした状況を受け、県・関係市町・実施主体と連携して対策を講じるため、福井県の主導で緊急会議やワーキング等を実施し対応に当たっている。市内を運行していた福浦線については、越前町民や鯖江市民が福井市に出る移動手段として利用するほか、福井県立丹生高等学校の生徒の通学手段として利用されていた。利用者への影響を最小限に抑えるため、同じく越前町から鯖江市へ走る福井鉄道鯖浦線のルートおよびダイヤを調整し、通勤通学の時間帯の便を強化したほか、福井鉄道神明駅から福井市への朝の鉄道便を増便し、神明駅から鉄道利用で福井市に出る移動手段を確保した。さらに、丹生高校生徒の通学時間帯と合わせたダイヤ、ルートとすることで、学生の既存利用者にも最小限の影響となるように調整した。これらに対応により、多くの福浦線利用者も鯖浦線にカバーすることができるものと考えており、市民の利便性低下は避けられないが、福浦線利用者が鯖浦線に流れることで、鯖浦線単体の利用者数は大きく増加する見込みとなっている。	コミュニティバスに関する情報発信の面では、令和5年度からスタートしたSNS(InstagramおよびX)を活用した情報発信を継続した。フォロー数やいいね!数も順調に伸びており、今後も継続して情報発信していく。 一度バスに乗ってもらうためのきっかけ作り施策としては、市内イベントで公共交通ブースを出展した際(コミュニティバスの塗り絵を親子連れに行ってもらい、夏休み期間にバス車内に掲示することで、親子での乗車や祖父父を交えての乗車を行うきっかけ作りを行った。	○分析 各地区路線から市内循環線への乗継ぎ利便性の向上により、循環線の利用者数が顕著に伸びている。 また、市街地に立地し人口が多い神明明地区を走る神明線も好転しており、通勤通学時の福井鉄道神明駅との接続を改善した新ダイヤや、地域サロンでのPR活動等の効果が出始めていると考えられる。 その他地区路線においても、新ダイヤに慣れたことで各路線回復傾向にある。	新たな利用促進の取り組みとして、小学生以下の親子世代をターゲットにしたつつじバスでイベント会場をまわるといったイベントの開催を検討している。お子様に人気な福鉄ふくふわやガチャガチャコーナー等を設置し、イベント参加のためにつつじバスに乗ってもらうことで初めてのバス乗車のハードルを下げ、合わせて福井鉄道やハビランふくいといった鉄道にも興味を持ってもらい、公共交通全体の利用を促進する。 こうした新たな取り組みとあわせて、これまで一定の効果上げてきたSNSを活用した情報発信や高齢者サロンでの出前講座等については継続して実施し、幅広い年齢層に利用していただけるコミュニティバス事業を目指す。